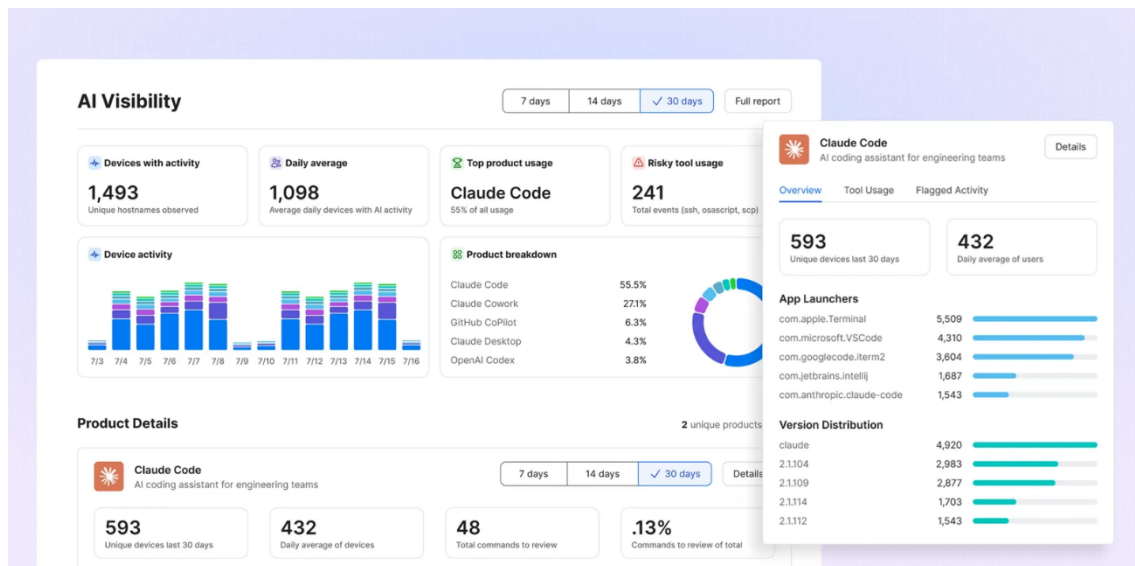


2026年7月1日  
Jamf Japan 合同会社

## Jamf、業界初の Mac 向け AI コントロールプレーン「AI ガバナンス」を提供開始

～OS レベルで Mac における AI 利用を可視化・統制～

企業・組織における Apple デバイスの管理とセキュアな運用のための業界標準ソフトウェアを提供する Jamf（本社：米国ミネソタ州ミネアポリス）は、2026年6月30日より企業における AI 活用の拡大に伴う新たなセキュリティおよびガバナンス課題に対応するため、Mac 環境向けの「AI ガバナンス」機能の提供を開始します。従業員が利用する AI ツールの可視化と統制、そしてガバナンスの遵守を証明することが可能になり、OS レベルで操作する Mac ネイティブ「AI ガバナンス」を世界に先駆けて提供します。



## AI ツールの可視化・統制を実現する「AI ガバナンス」機能を提供開始

企業による AI の導入で業務効率の改善が急速に進む中、可視性の不足や管理の複雑化といった課題も顕在化しています。実際に、Jamf が IT セキュリティ・リーダー 687 名を対象に、本年実施した最新の AI ガバナンス調査（詳細は後述）の結果、企業の約 7 割が AI を導入する一方で、およそ 5 社に 1 社（22%）の割合でコストやセキュリティ問題など、AI に関連したインシデントを経験していることが明らかになりました。AI 導入による生産性の向上に伴い、AI ガバナンスによる統制も重要になってきています。

Jamf は、これらの課題を解決するため、デバイス管理からセキュリティ対策まで対応可能なオールインワンソリューション「Jamf for Mac」の新機能として「AI ガバナンス」の一般提供を開始します。この「AI ガバナンス」により、IT・セキュリティ部門は、組織内で利用される AI ツールの検出、アクセスポリシーの適用、監査対応を見据えたレポートの生成が可能になります。また OS レベルで動作する Mac ネイティブ設計を採用しており、AI ガバナンス制御を統合的に実現するソリューションとして提供されます。

リリース時点から、Claude Code、Claude Desktop、OpenAI Codex に対応し、利用する AI のアクセス制御、ネットワーク権限、ファイルシステム制御、MCP サーバの制限など、AI 利用に関する幅広い設定管理が可能です。さらに、ベンダーコントロール追跡エンジンにより、サポート対象の AI プラットフォームにおける新規および更新された制御項目を継続的に検出できます。これにより企業は、AI ツールの進化に対応しながらガバナンスポリシーを常に最新の状態に維持することが可能となります。

## 「AI ガバナンス」の主な機能

AI ツールは、Apple シリコン上で直接動作するものや、バックグラウンドで稼働するものが一般的です。そのため、従来のネットワークプロキシやクロスプラットフォーム型の管理ツールでは、AI ツールの利用状況を十分に可視化し、適切に制御することが難しいという課題があります。また、これらを統合的に実現するソリューションは、これまでありませんでした。

Jamf の「AI ガバナンス」は、管理者が日常的に利用しているデバイス管理プラットフォームにおいて、ベンダー推奨の AI 構成を短時間でネイティブに適用できる仕組みを導入しています。これにより、前述のような Mac で利用される AI ツールの可視化・統制という課題を解決していきます。

Jamf の「AI ガバナンス」の主な機能は以下の3つです。

### (1) 利用状況の可視化 ～見えにくいAI利用実態を把握可能に～

AIアプリケーションの可視化とシャドーAIの検出機能により、AIツールやエージェント、LLMランタイム（バックグラウンドエージェントを含む）などの利用状況を把握することが可能です。これにより、組織内のAIツールの利用実態を、新たなエージェントを導入することなく可視化できるようになります。

### (2)適切な利用の制御 ～AI利用をルールに基づいて統制～

AIアクセスポリシーを設定することで、組織内で利用が許可されたAIツールを定義し、アクセスポリシーを全社に適用することができます。さらに、「高セキュリティ」「バランス型」「開発者向け」といった3つのデフォルトのセキュリティ状態をはじめとしたさまざまなセキュリティレベルを適用することができるため、部門や利用シーンに応じた柔軟な管理が可能です。また、ベンダー推奨の構成設定を一括で適用できるため、組織全体における一貫したポリシー運用を効率的に実現します。

### (3)ガバナンスレポート ～AI利用状況を経営レベルで管理～

AIの利用状況を可視化した経営層向けのレポートを生成し、CIOやCISOに組織全体におけるAI活用の概要を提供することが可能です。これにより、現場レベルだけでなく、経営層レベルでの意思決定やリスク管理体制の構築に貢献します。さらに、SIEMとの連携にも対応しており、既存のコンプライアンス要件に基づいた監査やレポートにも活用できます。

JamfのAIガバナンス機能は現在、「Jamf for Mac」でご利用いただけます。

詳細は以下リンクからご確認ください。

<https://www.jamf.com/ja/solutions/ai-governance>

## 調査で明らかになったAIガバナンスの課題と対応策

昨今、企業において業務のAIツール活用が急速に進む中、AIツールの利用状況を適切に管理・統制するAIガバナンスの重要性が高まっています。2026年にJamfが実施した、IT・セキュリティリーダー687名を対象としたAIガバナンス調査では、AIを業務に深く取り入れている企業は、導入を検討している段階の企業と比べて、インシデントの発生率が約40%高いことが明らかになりました。これは、AIの活用が進むほどリスクも高まる傾向にあることを示しています。

こうした状況から、AIガバナンスは将来の検討事項ではなく、すでに運用上の必須要件となっています。

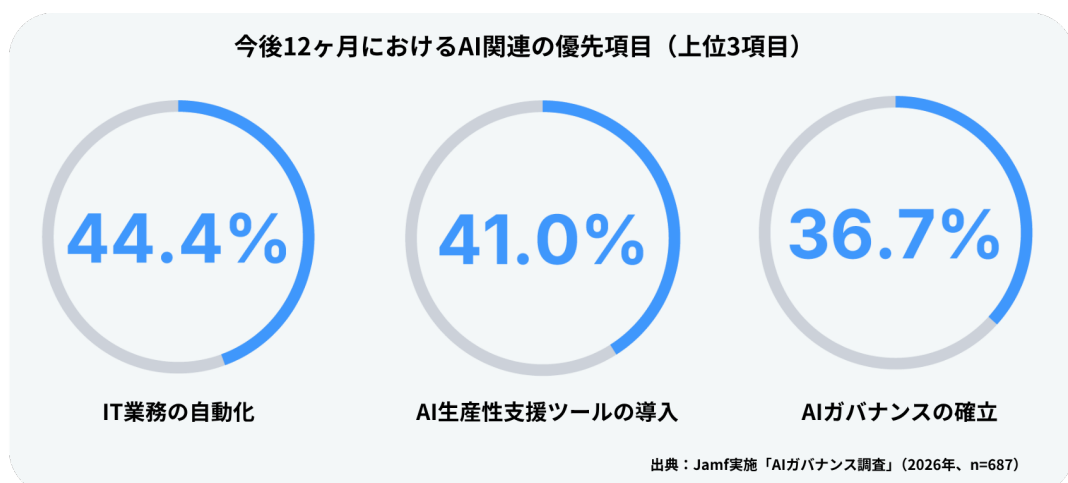
## 企業における AI 活用の実態

本調査により、企業における AI 活用の実態として以下の点が明らかになりました。

### (1) AI 導入とともに高まるガバナンスの重要性

企業の今後12か月における AI 領域整備の優先項目として、以下の3点が挙げられています。

- IT 業務の自動化 (44.4%)
- AI 生産性支援ツールの導入 (41.0%)
- AI ガバナンスの確立 (36.7%)



これらの結果から、企業が AI による生産性向上と同時に、ガバナンスの強化にも取り組んでいることが分かります。

### (2) 浮き彫りになった主な課題

また、本調査では、AI 活用の拡大に伴い、以下のような課題が明らかになりました。

- 未承認の AI ツール利用（シャドーAI）による利用実態の把握
- 開発者向けツールや自動化 AI の増加による管理の複雑化
- AI 機能を持つツールの増加に伴う選定・統制の複雑化
- 利用状況が見えにくいことによるコスト管理の精度低下

詳細については、Jamf の [AI ガバナンス調査レポート](#) をダウンロードのうえ、ご覧ください。

## **AI 導入は次のフェーズへ**

今回の調査では、企業における AI 活用が「導入するかどうか」の段階を超え、「どのように管理しながら活用するか」の段階に移行していることを示しています。AI が業務やシステム、デバイスのさまざまな領域に組み込まれる中、IT・セキュリティ部門には、どの AI ツールがどのように使われ、どのデータにアクセスしているのかを把握することが求められています。安全に AI 活用を拡大していくためには、こうした状況を正確に把握し、適切に統制できる体制の整備が不可欠です。

Gartner®は、「AI ガバナンスへの支出は2026年には4億9,200万ドルに達し、2030年までに10億ドルを超えると予想され、企業は規制リスクおよび運用リスクに先手を打つため、必要なツールや戦略の見直しを進めている」※と指摘しています。

こうした市場動向を背景に、企業は AI の利活用とガバナンスを両立させるための取り組みを加速させています。

Jamf は、AI 時代における Apple デバイスの活用を、AI ガバナンスを通じて支援することで、企業の成長と安全な AI 活用の推進に貢献していきます。

※参照元（英文）：<https://www.gartner.com/en/data-analytics/topics/data-governance>

## **■Jamf について**

Jamf は、エンドユーザーから愛され、企業・組織から信頼される Apple エクスパリエンスの管理、セキュアな運用、業務の簡素化を目指しています。また Jamf は、デバイス管理、セキュリティ対応、AI による自動化が統合された Apple 特化型プラットフォームを提供する業界唯一の企業です。IDC Market Scape や Gartner®マジック・クアドラント™において、複数の部門でリーダーとして選出され、業界をリードしています。

Jamf Japan 合同会社は2017年の設立以来、日本国内の企業だけでなく、教育機関や医療機関など幅広い業界において、Apple デバイスの統合エンドポイント管理を支援してきました。

Jamf Japan は、グローバルで培ったノウハウを活かし、日本市場に特化したサポート体制を構築。導入から運用、セキュリティ強化まで、組織の規模や業種に応じた柔軟なソリューションを提供しています。

Jamf に関する詳細は[公式 Web サイト](#)をご覧ください。

## **■報道関係者様のお問合せ先■**

Jamf Japan 広報事務局（株式会社小田急エージェンシー内）

メール：jamf\_press@odakyu-ag.co.jp